

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年2月26日
札幌市立八軒東中学校
校長 高木 浩二

学校番号 37008

1 本年度の学校経営の基本方針

「笑顔」「つながり」「誇り」のある学校を目指して

- 1 授業の充実 2 小中一貫した教育の実行 3 多様性に対応した生徒指導・支援 4 働き方改革

2 本年度の経営の重点

- 1 学ぶ力の育成 4 信頼される学校の創造
2 「豊かな心」「健やかな体」の育成 5 働き方改革
3 特別な配慮を要する子どもへの教育

3 自己評価結果に対する学校関係者評価 (A B Cの3段階評価)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校全般	1 学校教育目標「たくましく生き抜く力」に向かって、生徒の力を高めるための教育活動が行われている。	A	教職員の中で、「たくましく生き抜く力」を育むとの意識が高まってきた。常に「何のため」に行っているのかを考えつつ、支援・指導にあたる。生徒・保護者ともこの目標を共有できるよう、様々な場面で発信していく。	A	A
	2 学校の様子は、学校ホームページやおたより等を通して家庭や地域へ適切に発信されている。	A	HPの充実を図るため、作成に携わる教職員を増やしてきたが、私用端末が使えなくなったので、予算が許せば性能の良いカメラを導入したい。すぐへの活用は定着した。	A	A
	3 学校公開日や懇談、行事等を通して、保護者が教育活動に参加しやすいように工夫している。	A	授業参観や行事に多くの参加をいただけた。学年の行事なども可能な限り公開しているため、都合がつけられるよう、早めの周知を心がける。	A	A
	4 校舎等、学校の施設、設備は安全できれいに保たれている。	B	改修工事が延期されているが、これまで同様、生徒がより快適な学校生活が送れるよう、学校内で取り組める範囲で清掃や環境整備を行っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・行事などの写真や動画の撮影、その加工・編集はスマホの方が作業効率は高いので、セキュリティ等の課題をクリアできるのであれば導入を検討するとよい。 ・学校の施設設備に関しては、学校で対応できることではないので、校内でやれる範囲で努力していけばよい。 			

学習指導	5 わかりやすく楽しい授業が行われている。	A	生徒が主体的に取り組み、学力・意欲が高まるような授業展開やワークシート等の教材、グループワークやペアワーク等の授業形態を工夫する。	A	A
	6 各教科の評価・評定について、十分な説明が行われており、適切な評価評定が行われている。	A	各教科で課題などの評価規準や採点基準等を明確にして、さらに分かりやすい説明を心掛ける。評価評定が、生徒が自分の学びを振り返り、学習を改善していく機会となるよう働きかける。	A	A
	7 体育の授業や体育的行事等、運動に親しみ、体力や運動能力が高まる活動が行われている。	A	次年度からスキー学習を行わないので、雪中レクを学年ごとに開催し雪に親しむ機会を設ける。また、陸上競技会をはじめ、学年レクなどを開催できるよう日程を確保する。	A	A
	8 総合的な学習の時間では、生徒が主体的に取り組み、課題を解決する力を高める活動が行われている。	A	見直し、改善が進んできた。生徒も意欲的に取り組んでいるので、さらに生徒主体の取組となるよう、活動内容を工夫する。	A	A
	9 道徳の授業等、豊かな心を育むための教育活動が適切に実施されている	A	学年ごとに教員がローテーションで授業を行う形が定着した。また、外部講師の活用も進んでいる。できる限り、さまざまな人が関わる形で道徳教育を充実させていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者負担の軽減を図るためにスキー学習がなくなるということは理解できる。雪中レクや歩くスキーなど、スキー学習に代わるものを学校で検討して欲しい。 ・コロナ禍までは、学校祭で東中会による茶道体験の機会を設けるなど、伝統的な文化に触れる機会を作っていた。ぜひ検討してほしい。 ・教科の授業や体育的な行事、総合的な学習や道徳は充実しているようなので、芸術に触れる機会、音楽的・文化的な行事の充実にも力を入れてほしい。 ・大雪の日、スタックした車を部活帰りであろう3人の生徒が救出していた。困っている人がいれば、手を差し伸べることができる。心が育っていると嬉しく感じた。 			

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生活指導	10	A	教師の姿で範を示すとともに、道徳や特別活動での指導の充実を図る。また、生活委員会のあいさつ運動やチャイム席の点検活動等の生徒主体の取組の一層の活性化を図る。	A	A
	11	A	教師の巡視活動による、困っている生徒や問題行動の予防・早期発見・対応と教師間の情報共有を強化する。本校の「いじめ防止基本方針」に基き、迅速で組織的な対応を徹底する。	A	A
	12	A	生徒と向き合える時間を確保できるよう、教育相談日程の設定を継続する。スクールカウンセラーや相談支援パートナー・学びのサポーターによる個別支援の充実を図る。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<p>・先生方から学年の様子などを伺うと、本当によく生徒を見てくれていると感じる。この状態を継続していただきたい。</p> <p>・先生と生徒の信頼関係ができているのが数値に表れている。思春期特有の難しさがあると思うが、親とは異なる関係性で生徒を支え導いてほしい。</p> <p>・これまで同様、話しやすい関係づくりを大切に、生徒の困り感にいち早く気づき対応していただきたい。</p>			

重点項目	13	A	学校行事や委員・係活動等で、それぞれの個性が発揮できるような場面の設定を工夫するとともに、学校生活や授業の中でできる限り生徒の特性に配慮した対応を心がける。また、そのための情報交流を密に行う。	A	A
	14	A	クロームブックが更新されるので、管理方法を変更し、3年間持ち上がる形とし、大切に扱う姿勢を身につけさせたい。また、使用方法についても再確認する。校務支援システムも変更されるので対応していく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<p>・市教委の共通指標アンケートの結果からは、計画的に物事を進めていくことが苦手な生徒が多いということなので、年間や学期ごとの目標設定だけではなく、一週間単位のスモールステップで目標・計画を立てるといったような取組も行ってみたい。時間をどう使うかを考える力を育ててあげてほしい。</p>			

自己評価の基準について

一昨年度よりアンケートの設問を変更し、生徒・保護者・教職員すべての設問を同様にしました。変更に伴い、次のように基準を設定しました。

- ・学校評価アンケートの回答結果で、
「そう思う」を5点、「ややそう思う」を4点、「ややそう思わない」を2点、「そう思わない」を1点とする
- ・生徒・保護者・教職員ごとに集計、平均点を算出し、その平均点が5点満点中で何%かという達成率に変換
- ・生徒・保護者・教職員の評価の重みを「3：3：1」として、全体の達成率を算出
- ・全体の達成率が85%以上を「A」、70%以上85%未満を「B」、70%未満を「C」とする